

第36回資源・燃料分科会への意見提出

令和5年2月22日

一般財団法人日本エネルギー経済研究所理事長 寺澤達也

本日開催の資源・燃料分科会には残念ながら出席できないため、書面で意見を提出させていただきます。よろしくお願いいたします。

1. 重要鉱物のサプライチェーン強化

大変重要な取り組みですが、2点だけ申し上げます。

- (1) サプライチェーンが偏在しているのは鉱山よりもプロセッシングの部分なので、探鉱・鉱山開発だけでなく、プロセッシングの強化にも重点を置いてほしい。
- (2) 経済性がないと持続できないので、競争力のあるコスト低下につながる「規模の経済」をどう確保するのかについて十分留意し、実効性のある対応策を講じてほしい。

2. LNGの安定調達

LNGの安定調達は極めて重要であり、このためにも「戦略的余剰LNG」は高く評価します。しかしながらこの規模は限られているので、長期契約をきちんと日本が確保できるよう環境整備と政策支援の強化を是非進めて下さい。

3. 資源外交

残念ながら中東における日本のプレゼンスは低下しており、お互いのパイプも弱くなっているのが実状だと思います。散在している「点」としての接点をつなげ、面的な関係構築に資するよう、システムチックな体制整備と日頃からの継続的な取組が重要だと思います。資源外交の強化に向けた具体策の検討をお願いします。

また日本の資源戦略を進める上では、G7や日ASEANの首脳会議、あるいはLNG産消会議などの場を最大限戦略的に活用し、安定的な上流投資の確保や対アジア協力でリーダーシップを一層発揮してほしいと考えます。

4. 水素・アンモニア

水素・アンモニアの実装のためには検討中の制度構築は極めて重要だと思います。他方、米国のIRAに世界の企業の関心が集中しているのは、米国の支援策が具体的となっており、すぐ使え、しかも10年間のコミットがあるためです。日本においても、民間企業の投資判断ができるよう、できるだけ早く制度の具体

的詳細内容を固め、早く利用可能にし、そして長期にわたるコミットを明確にすることが重要だと思います。

また水素・アンモニアの輸入も必要となりますが、好条件の拠点からの調達を確保するためには、石油・ガスの権益確保同様の視点で今後の水素・アンモニアの生産国との関係構築に努めていくことも肝要だと考えます。

5. 合成燃料

合成燃料は既存のサプライチェーンやインフラを活用できる面で利点があります。しかしながら世界各国が BEV 一辺倒となる現状では、合成燃料の世界における展開は容易ではありません。合成燃料を世界に展開して行くための戦略の策定が必須だと考えます。具体的には以下のような要素は必要かと思います。

- (1) 大量のバッテリー使用に伴う重要鉱物の消費激増を緩和し、重要鉱物のサステナビリティを高める意義など、合成燃料を推進する大義名分の確立。
- (2) 合成燃料単独ではなく、水素の第四のキャリアとして位置づけ、メタネーションなどともにプロモートしていくこと。
- (3) カーボン・フットプリントの精査による環境面での意義の確立。
- (4) 国際的なカーボン・アカウンティング・ルールの確立。
- (5) SAF の副生物としての製造など、コスト低減策の具体化。
- (6) 日本以外に合成燃料を推進する国際的な仲間づくり。

6. バイオ関連

諸外国の取組と比較して日本が明らかに弱いのは、バイオ燃料、バイオガス、バイオマスといったバイオ関連のエネルギー活用です。日本にはバイオ資源が乏しいことは事実ですが、そもそも化石燃料も輸入に依存している点では同じとも言えます。できるだけ多くのオプションを持ち、コストを下げるのが重要だと思いますので、バイオ関連のエネルギーへの取組の強化をお願いします。

7. CCS

国内 CCS に加え、海外での CCS も重要なオプションですし、有力な CCS 拠点の確保はいわば「権益」確保にも等しい意義があるかと思います。他方、多くの国々はまだ他国からの二酸化炭素受入れを検討したこともなく、そのための制度も整備されていないのが実状だと思います。有力な CCS 拠点の確保に向けた外国への働きかけ、制度構築等のサポートを是非開始してください。